

第37回

ICTワークショップ

人とのインタラクション

ちょっとした工夫で安全行動を促すリスク提示法、
遠隔コミュニケーションを実現するテレプレゼンス
アバターロボット、仮想現実・拡張現実を用いた提示
対象物の実在感を高める触覚センサ

2024

4/18 (木) 16:00~17:40

(100周年記念ホール及びオンライン同時配信)

要申込

詳しくはこちら



交流会(参加費1000円,ただし学生は無料)を実施します。
対面および交流会は先着35名様に限らせていただきます。(4/12締切)
オンライン参加は定員はありません。(当日12:00締切)



国立大学法人
電気通信大学
The University of Electro-Communications

主催：国立大学法人電気通信大学
後援：一般社団法人首都圏産業活性化協会（TAMA協会）
企画：産学官連携センター UECアライアンスセンター運営支援部門

プログラム

(1) 「ヘルスケア・安全行動意識を育てるあいまい情報とポジティブアプローチ」

田中 健次 特任教授
(産学官連携センター)

リスク提示において、詳細な情報よりも曖昧な情報の方が安全行動を促すこと、叱責と共に称賛を取り入れることで安全行動が自主的になること、などちょっとした工夫で安全意識が高まることが実験で明らかになっています。そこで、それらを健康行動にも適用して能動的な行動変容を促す方法について検討を始めました。その一端をご紹介します。

(2) 「テレプレゼンスアバターロボットを活用した次世代コミュニケーションの実現」

村山 剛之 氏
(iPresence株式会社 リモートプレゼンスコンサルタント)

テレプレゼンスアバターロボットでまるでその場にいるかのような遠隔コミュニケーションの体験を提供しています。またデジタルツインやメタバースを融合させてリアルとバーチャルを行き来できるような体験を提供し、物理的な距離を超えた新しい形の交流を実現します。

(3) 「触覚を中心としたxR技術の開発」

梶本 裕之 教授
(情報理工学研究科 情報学専攻)

最近のApple社の参入が話題になったように、xR技術 (Virtual Reality, Augmented Reality等) は今後のメディアの在り方を大きく変えると考えられます。その中でも提示対象物の実在感を高める触覚提示技術は今後重要になると予想されます。本講演では我々の取り組みの中から、人がどのように触覚を知覚するのかという解明研究、それをもとにした触覚提示技術の開発について紹介します。